



「東京ゲートブリッジ」を通行しました



「東京ゲートブリッジ」

※2013年12月21日、「東京スカイツリー」より撮影



台場にある1/1スケールの「ガンダム」



福岡空港行きの航空機に乗り込み、帰路に着きます

復路の機内では「東日本大震災により不通となっている、JR仙石線『高城町駅～陸前小野駅』の区間が5月に再開」というニュースが流れました。今回の修学旅行で、東北の被災地が多かれ少なかれ身近なものになったと思います。長崎に戻ってからも「東日本大震災」に関するニュースを目にすることがあると思いますが、そうした機会などに、今回の修学旅行で見て聞いて学んで感じたことを、近くにいる人に自分の言葉で伝えてもらいたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、出費過多な折、お子さまのために期限内の校納金完納にご協力いただき、ありがとうございました。また、インフルエンザ等に対しても予防のために最大限の対応をさせていただき、感謝申し上げます。さらには出発までの長い期間、「東京電力福島第一原子力発電所」の事故に係る放射線の不安や、蔵王山の活動状況など、多大なご心配をおかけしたことと思います。学校側としては、得られる情報をもとに関係機関と相談して安全性を確認しつつ、これらの情報をありのままに伝えてご理解とご協力をお願いすることしかできませんでした。お子さまが無事に帰宅するまで、懸念を十分に払拭することができなかった点を申し訳なく思っていますが、おかげさまをもちまして、修学旅行の全日程を無事に終了することができました。

生徒たちは自主的に考え、行動し、本当に立派な動きを見せてくれました。職員一同、この生徒たちと一緒に修学旅行を実施できたことを嬉しく思っています。残念ながら、病気や家庭での不幸のために修学旅行に参加できなかった生徒もいますが、彼らも大切な仲間です。過ごした時間と場所は違うため、見て聞いて感じたこともそれぞれに違いますが、4日間で得た貴重な経験を共有し、お互いの成長へとつなげ、これからの人生を力強く生きてくれることと信じています。

いよいよ最高学年である3年生になる日が近づいています。鹿町工業高校の顔として誇りある行動を心がけ、学校がさらに発展するよう、みんなでがんばっていきましょう。

東北の被災地で目にするものは、全て、現実自然災害がもたらしたものです。
自然災害は相手を選びません。老若男女関係なく、被害を与えます。
容赦のない100%破壊です。時に、戦争よりも残酷です。
大切なのは「自分がその時、その場所にいたならば」という立場に
なって考え、感じ、それを周囲に伝えていくことです。

(『平成26年度 修学旅行のしおり』より)

「東日本大震災」の発生から間もなく4年になります。
私たちが宮城県名取市閑上地区で見たのは、「東日本大震災」のごく一部でしかありません。
東北地方では私たちの知らない厳しい状況が、まだまだ続いています。
しかしながら「東日本大震災」の被災地を訪問するという貴重な機会を私たちが得たことも事実です。
「忘れないこと」「関心を寄せること」は、被災地の人々が何よりも求めていることです。
謙虚な気持ちを忘れずに、今回の修学旅行で見て聞いて学び感じたことを周囲にも伝えて
被災地のお役に立ち、命の大切さについても意識を高めていきましょう。
災害はいつどこで発生するかわかりません。

「東日本大震災」について

平成23年(2011年)3月11日、14時46分に、東北の三陸沖を震源とする「東北地方太平洋沖地震」が発生。地震の規模を示すマグニチュードは9.0、最大震度は7(宮城県栗原市)。この地震により発生した高さ10mを超える巨大津波が東北の太平洋沿岸に到達し、広大な地域が浸水。「東京電力福島第一原子力発電所」(福島県大熊町(双葉郡))も津波の直撃を受け、原子炉冷却用の電源を喪失する大事故が発生し、放射性物質が放出される事態に。津波で自宅を失った人や、放射線の影響で自宅での生活ができなくなった人は、平成27年2月現在もなお避難生活を強いられている。「震災関連死」を含むと、死者・行方不明者は2万人を超える。